

(5) 大学附属高等学校の運営計画

I. はじめに

「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。
おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる」
（旧約）ヨシュア記1章9節（新共同訳）

北星学園大学附属高校は、スクール・ミッションとして「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」ことを教育目標として掲げ、さらに3つの力を育成することを使命として、本校の教育を作り上げていきます。

- ① 「共育」を理念とし、他者の意見を聴き主体的に思考できる生徒の育成
- ② 「知る力」を養い、自己理解と世界理解を深め、社会における自らの視野を広げることのできる生徒の育成
- ③ 「探究」することによって、学びを社会につなげ、社会に還元する力を身に付けた生徒の育成

また、昨年度の総括を踏まえ、「2040 年までに目指す姿」として掲げる5つの教育を柱とするブランド力ある高等学校として、チャレンジを続けます。

教学の観点では、本学の教育を深化させるために、「I.教科教育」「II.生活指導」「III.進路指導」において、具体的な目標をもって取組みます。これらを実現するために、各教員に対してオンライン、対面講義、見学等で学びを深めることを促します。

財政運営については、2030 年度までの中期的な財政計画に基づいて、目標達成のために支出削減と、安定した生徒募集を努力します。



北星学園大学附属高等学校
校長 今城 慰作
IMAO, Isaku

II. 重点施策

1. 下記に掲げた点を、今年度の具体的な重点施策とします。

(1)	学校教育目標の理解を深めつつ、私学の魅力や特色のある教育を意識して取組みます。
(2)	高大「連携」を更に強化していきます。
(3)	クラブ活動、教育活動、特別活動の中で、個々の生徒を尊重し、全人的に理解するよう努めます。

III. 教学

I. 教科教育

1. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取組み、自らの世界を広げることができるように、授業や行事を計画する。

(1)	総合的な探究の時間の取組内容を時代の変化に合わせて策定し、主体的に取り組むことができる課題を提示します。総合研修旅行の学習を通して、平和や異文化理解についての研修に取組みます。
-----	--

2. 学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。

(2)	授業において各回に1回はペアワークやグループワークを取り入れ、生徒間で対話する時間を設けるような授業計画を立案します。
-----	---

3. 適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組み立て活用し作り上げていく力を育めるように、教員の情報スキルを高める。

(3)	外部の各種研修会への参加者数増加を目指します。
-----	-------------------------

4. 高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。

(4)	理科の実験授業において生徒が実験結果をまとめ、考察できるようにワークシートを作成して取組ませます。
(5)	文章表現指導の際に、根拠に基づいた意見を述べられるように指導します。

5. 発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。

(6)	各科目において授業内で課題解決型の授業展開を追求しながら、プレゼンテーションの場を設けます。
(7)	教科横断型の授業構築を追求します。

6. 主体的・対話的で深い学びの実践を進める。

(8) 各科目でパフォーマンス課題の内容を精査し、課題に取組ませる中で主体的・対話的な学びを進めていきます。

7. I C Tを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。

(9) 各科目1回以上、タブレットPCを活用した授業を展開します。

8. 思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。

(10) 理解したこと・できることを客観的に確認でき、新しい課題に自ら学ぼうとする姿勢を持てるような授業を展開します。

9. 多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。

(11) 地域の奉仕活動として、サッカー・野球部以外のクラブ活動も主体的に参加できるように促します。

10. 変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探求する。

(12) 聖書の授業、礼拝・アドベント・教会体験などのキリスト教行事における全体メッセージの策定と、それに伴うレポート課題の出題を計画します。

11. 上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。

(13) 外部の各種研修会への参加者数増加を目指します。

II. 生活指導

1. 人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。

(1) H R活動の仲間づくり・人間関係作りに重点を置き、個を大切にしたH R運営方針と実践を追求します。

2. 他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。

(2) クラブ活動においても実技指導以外の「人間性」「社会性」の確立を意識し、生徒主体の活動を進めます。

3. 生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。

(3) 生徒の状況把握と、教員間での生徒の情報共有を進めます。

III. 進路指導

1. 生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。

- | | |
|-----|--|
| (1) | 外部進学イベントへの参加を計画します。また、卒業生などを招いた進路講演を各学年で実施します。 |
|-----|--|

2. 大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を計りながら学内進学者を増やす。

- | | |
|-----|---|
| (2) | 北星学園大学ミニオープンキャンパスでの大学生との交流、英検対策として北星学園大学の学生にアシスタントの依頼、探究のプログラムに卒業生の参加を求めるなど、高大接続を強化します。 |
|-----|---|

3. 時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供ができる体制を確立する。

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| (3) | 進路指導研究会等への参加と校内における情報共有を積極的に行います。 |
|-----|-----------------------------------|

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活かした戦略的な「入試・広報」体制を確立する。

- | | |
|-----|--|
| (1) | 3回行う学校説明会に各回 300 名の中学生を迎えることができるような広報を展開します。 |
|-----|--|

2. 入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。

- | | |
|-----|---|
| (2) | 定期的な生徒アンケート調査を継続的に行い、生徒の要望等を把握し、募集体制に反映させていきます。 |
|-----|---|

3. 学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。

- | | |
|-----|------------------------------------|
| (3) | 学校説明会・授業説明会の広報活動を見直し、参加者の増加を目指します。 |
|-----|------------------------------------|

II. 働き方改革

1. DXを推進し業務の効率化を目指す。

- | | |
|-----|------------------------------|
| (1) | 超過勤務時間を減少させ、休暇の取得率の増加を目指します。 |
|-----|------------------------------|

2. コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。

- | | |
|-----|--------------------------------------|
| (2) | 課題を周知しやすい分掌・学年体制、会議体制等の組織全体の改変を進めます。 |
|-----|--------------------------------------|

III. 採用計画

1. 計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

- | | |
|-----|---------------------------|
| (1) | 年齢構成と専任教員数を意識した人事採用を進めます。 |
|-----|---------------------------|

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

- | | |
|-----|--|
| (1) | 学校収入の柱である学生生徒納付金について転退出者数を抑え、中期財政計画の数値の達成を目指します。 |
|-----|--|

2. 奨学生を適正化におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。

- | | |
|-----|--|
| (2) | 生徒募集と奨学金支出のバランスの取れた奨学金制度の構築を行います。また現制度内においても、奨学金Cの強化指定クラブの給付対象者数の管理を行い、適正な収支バランスを目指していきます。 |
|-----|--|

3. スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。

- | | |
|-----|---|
| (3) | ドライバー不足などの外部要因を踏まえ、運行コース内におけるルートの再検討を行い、キロ数の削減による支出減などの検討を行います。 |
|-----|---|

4. 新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。

- | | |
|-----|------|
| (4) | ---- |
|-----|------|

5. 設定した寄付額を達成できるような募集中止体制を構築し、寄付を推進する。

- | | |
|-----|---|
| (5) | 寄付の活用状況を発信し、同窓生、特に同窓会活動への積極的参加が少ない附属高校化以降の卒業生ネットワークの構築を目指し、継続的な寄付を依頼できる基盤を整えます。 |
|-----|---|

II. 施設・設備

1. キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。

2. スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。

3. 上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。

- | | |
|-----|----------------------------|
| (1) | 財政運営目標を可及的早期に達成することを目指します。 |
|-----|----------------------------|

以上